

## 相談支援事業所 相談に関する報告(平成28年9月～平成29年1月)

<所感>…全体的な所感(相談内容の傾向)、特に気になった点

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

### 【春日苑】

<p>&lt;所感&gt;</p>	<p><b>【事業所とのマッチングの支援について】</b>          身体に障がいがあることから、移動手段が限られ、複数の事業所を見学することを体力・金銭面などから躊躇する方が多い。その結果、現在利用している事業所と他の事業所を比較・検討することなく、現在の事業所の利用を続け、ニーズとのマッチングが円滑に進まないこともあった。入所施設・生活介護事業所・就労系事業所・グループホームなど、体験しながら利用先を決めていけるような事業(システム)があるとよいと感じる。</p> <p><b>【健康管理について】</b>          体調不良・怪我により、急を要する支援調整が複数あった。利用者の中には、元々体力が低下している方が多く、定期受診がない方は病状の発見が遅れ重度化してしまうことが多い。また、予防接種・検診などの案内があっても体調管理について認識が低い方もおり、病院受診が滞ってしまう方がいる。そのため、感染症対策・予防接種・がん検診・健康診断についてなど、日頃から定期的なはたらきかけが必要だと感じる。</p> <p><b>【衛生管理について】</b>          住居の衛生に関わることについては、各々の価値観もあるため福祉サービスでは対応が困難なことがあり、本人・家族へ促す程度の支援しかできない。その結果、不衛生な住環境となり感染症・怪我に至るケースがある。衛生面での働きかけができるとよいと感じる。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p><b>【将来のすまいの選択について】</b>          市内に身体障がい者の方が入居できるグループホームの数が少ないことから、将来の生活の場の選択肢が狭まってしまっている。</p> <p><b>【地域で支えていけるシステムについて】</b>          安否確認について、公的サービス・民間サービスなど様々な事業があるが、安否確認を行っている事業者との連携・調整がスムーズに図れるとよいと感じた。愛知県・春日井市ともに高齢者の見守りサービスがあり、市のホームページなどにも紹介があるが、障がい者にも対応できるものがあるとよい。地域移行が進む中で、地域で(インフォーマルなものも含めて)支えていけるようなシステムになるとよい。</p>

### 【かすがい】

<p>&lt;所感&gt;</p>	<p><b>【発達障がいのある人の支援】</b>          家事や物の管理が苦手、周囲と孤立、仕事も上手くいかない等悩みがあり、大人になって家族や他者を通して繋がったケースがいくつかあった。いずれもコミュニケーションが難しいと訴えがある。その方の訴えを丁寧に聞き取り、一緒に目標を決めて支援する事が多かった。身辺自立していても、社会での生きづらさを持つ方への合理的配慮の周知促進が必要である。その方にとっての苦手な部分にアプローチできる支援が充実されるとよいと感じた。</p> <p><b>【障がいに対し偏りのある見方を持つ方について】</b>          手帳ありきではないが、障がい者手帳があることで、その方に適した支援を受けられると考える。しかし、障がい者手帳に対する抵抗を感じる方がいる。要するに、障がいに対する世間のネガティブなイメージがあり、本人に影響を与えていると感じる。手帳取得を考える方に、手帳を持つことの意味等の説明を丁寧に、将来を一緒に考え支援する事で、当事者は前向きな気持ちになり自立に近づくと感じた。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p><b>【合理的配慮の啓発について】</b>          就職活動において、手帳所持を伝えると、面接まで至らない一般企業がある。以前、知的障がいのある方を雇用したが、大変だったので今後は雇用しない等の企業側の意見があった。このような企業側の困りごとに対応する為にも、コミュニケーション方法や作業工程の説明の工夫をする等、障がいがある方の特性にあった配慮があれば、相互理解に近づくと考え。一般企業を含めた世間への合理的配慮に関する啓発活動を積極的に進めて行き、福祉との連携、共生社会の実現化を形にしていく必要がある。</p> <p><b>【サービス等利用計画とセルフプラン】</b>          計画相談支援に関する相談は継続して増えている。中でも、子どもから大人のサービスへ移行する方や、相談員の変更希望の相談が多い。しかし、指定特定相談支援事業所の変更にかかる時間が長くなり、更新のタイミングでセルフプランになる方も少なくない。本人が混乱しない為にも、指定特定相談支援事業所と委託相談支援事業所の役割を一層明確にする取り組みを春日井市全体で行う必要がある。</p>

【JHNまある】

<p>&lt;所感&gt;</p>	<p>【就労継続支援(A型・B型)利用に対しての不安】 就労継続支援(A型・B型)事業所利用を希望する相談が複数あった。経済的な理由やステップアップのためなど、利用を希望する理由は様々であるが、本人が働く理由を明確にできるよう丁寧に話を聞き、本人が望む生活を一緒に考えている。しかし、本人には新しいことを始めるが故の不安があり、その都度気持ちの整理ができるよう支援している。</p> <p>【精神科病院退院後の生活】 精神科病院に入院している本人の家族から退院後の生活についての相談が複数あった。家族間の関係がこじれてしまい、自宅への退院が難しいケースである。グループホームへの入所を希望する家族が多い。しかし退院後にグループホームは利用せず、単身生活をする方も多くいる。地域生活で利用できるサービスはひとつではなく、ホームヘルプサービス・日中活動・日常生活自立支援事業など複数あることを説明し、本人の単身生活についてイメージがしやすいような説明を心がけている。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p>【情報収集と相談先】 ヘルパー利用を希望する相談が複数ある。利用したい(できる)社会資源の所在や内容の情報収集を行うこと、具体的に利用したい事業所とのやりとり(時間数や日程調整)などを新規申請のセルフプランで行うことは大変である。計画相談を利用することが望ましいが、春日井市には指定特定相談支援事業所がまだまだ少ない。利用者と指定特定相談支援事業所を適切に結びつけることが必要だと感じている。</p> <p>利用できる制度や福祉サービスを知らずに過ごされている方がまだまだたくさんいる。本人や家族が速やかに相談できるよう身近な相談先として今まで以上に周知していく必要がある。また、関係機関との連携作りも強化して、的確な対応ができるような信頼関係の構築が重要だと感じている。</p>

【あっとわん】

<p>&lt;所感&gt;</p>	<p>【保護者の支援について】 子どもの相談ではあるが、保護者自身の不安や困り感が大きくなっている場合も少なくない。そのため、子どもの状況を丁寧に聞き取り、保護者自身の気持ちの整理をしつつ、子どもの見方や視点を伝えている。保護者に気づきや視野を広くもてるような支援をしている。</p> <p>【園との連携について】 園児を持つ保護者からの相談は、「集団活動への参加が難しい」「切り替えが苦手」「登園を嫌がる」といった内容であった。保育園や幼稚園の場合、連携は少しずつ進んでいるため保護者とのパイプ役となり、困り感のある子どもたちにとって多方面から必要な支援を園の先生や保護者と一緒に考えている。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p>【学校との連携について】 小学生の子どもを持つ保護者からの相談が増加傾向にある。相談内容は、さまざまで「学校で友だちとトラブルになり、どう対応すればよいのかわからない」「本人が家で暴れるので、大変」「不登校ぎみで困っている」などがある。家庭でできる支援を中心に伝えているが、学校との連携があれば、よりよい支援ができると考えられる。</p> <p>【家族支援として保護者が学べる場について】 子育てをする中で、「子どもとどう関わっていいのかわからない」「子どもを叩いてしまう、叩きそうになってしまう」など保護者自身の悩みも少なくない。子どもに障がいがあなくても育てにくさがある場合、保護者が子育てを学べる場であったり、機会が必要と感じる。そのためにもどんな子どもでも支援できるような課の一本化であったり、3歳児健診後の事後教室であったり、支援体制を整えていく必要がある。</p>